

日本大学工業化学科教職員名簿

氏名	専攻	着任	退任	氏名	専攻	着任	退任
永井彰一郎	酸アルカリ肥料	13. 4	44. 3 (定年) (45.9.3逝去)	植竹和也	燃料化学	27. 4	
友田宣孝	食品化学	13. 4	31. 3 (逝去)	宮森宏	纖維素化学	27. 4	
福田義民	化学工学	13. 4	15.	田村利武	有機工業化学	27. 11	
中原万次郎	硫酸塩化学	13. 4	44. 2 (定年) (52.5逝去)	岡俊平	電気化学	28. 4	40. 3 (61.1.6逝去)
黒柳安二	化学機械材料	14. 1	44. 5 (定年)	奥谷忠雄	分析化学	28. 4	
工藤憲資	纖維素化学	14. 4	46. 2 (定年)	板橋国夫	有機合成化学	28. 5	
横手正夫	染料化学	15. 4	53. 7	宮川継男	硫酸塩化学	28. 5	43. 4 (一般化学へ)
西川英三	燃料化学	15. 5	18. 7 (61. 逝去)	平井長一郎	油脂化学	28. 6	42. 2 (生産工学部へ)
仲篤司	電気化学	15.	21. 3	上野敦行	電気化学	28. 6	
岡宗次郎	分析化学	15.		荒井康夫	無機工業化学	31. 4	
牧島象二	物理化学	15.		芝宮福松	染料化学	31. 4	42. 4 (生産工学部へ)
藤山諭吉	分析化学	15.		邑上親由	燃料化学	31. 5	51. 5 (一般化学へ) (56.10.15逝去)
真島正市	応用物理学	15.		和井内徹	有機物理化学	32. 4	
五来達	無機化学	17. 2	46. 8 (定年)	町田弥	分析化学	32. 9	(生産工学部へ)
稲垣達雄	化学工学	17.	21. 3	青木繁樹	無機工業化学	33. 4	
皆川泰治	金属化学	17. 3	46. 10 (定年)	山田翠	固体触媒化学	34. 4	
南山齊	金属材料	17.	36.	内海諭	分析化学	34. 12	
市川良正	燃料化学	18. 9	42. 11 (定年) (61.5.6逝去)	中沢利勝	有機合成化学	35. 4	
加藤二郎	電気化学	20.	25. (54.3.26逝去)	大木喬	潤滑油	35. 4	(生産工学部へ) (55.3.1逝去)
長井潤	合成樹脂	20. 6	51. 5 (定年)	金丸競	高分子工学	36. 4	45. 12 (定年)
穴沢一郎	燃料化学	21. 1	41. 6 (生産工学部へ)	門井守夫	金属化学	37. 1	
松本太郎	油脂化学	21. 9		越智健二	化学工学	38. 4	
玉置彌栄	食品化学	21. 10	60. 6 (定年)	磯崎昭徳	分析化学	39. 4	
小山誠太郎	分析化学	21.	26. (新潟大学へ)	村川信子	学部教室事務	39. 10	
笠井順一	硫酸塩化学	22. 1	44. 11 (生産工学部へ)	和田英一	高分子工学	40. 4	59. 2 (定年)
伊藤舜介	分析化学	22. 2	46. 3 (逝去)	栗田公夫	高分子工学	40. 4	
池村糺	高分子化学	22. 11		田川浩行	高分子工学	41. 4	
米子稔	分析化学	22.	29. (逝去)	武末知行	高分子化学	43. 4	
市川次良	環境化学	23. 6		真下清	有機物理化学	43. 4	
板倉武雄	物理化学	23. 6	47. 10 (定年)	崎川範行	燃料化学	44. 4	54. 2 (定年)
山本洋一	金属化学	23. 11	45. 3 (定年)	栃木勝巳	化学工学	44. 4	
庄野信司	有機合成	24. 4	45. 2 (定年) (逝去)	安江任	無機工業化学	45. 4	
村上元一	化学工学	24. 4	60. 5 (定年)	双木利子	短大教室事務	46. 4	
小島和夫	化学工学	26. 9		秋久俊博	油脂化学	48. 4	
秋田稔	燃料工学	27. 4	42. 11 (45.11.30逝去)	桜川昭雄	分析化学	51. 4	
				澤口孝志	高分子化学	51. 4	
				滝戸俊夫	有機合成化学	51. 4	
				上條治夫	有機合成化学	52. 4	
				原田まゆみ	化学工学	56. 4	60. 8
				深津誠	有機工業化学	60. 4	
				栗原清文	化学工学	61. 4	
				岡島武義	有機物理化学	62. 4	
				高塚光	図書係		
				長島文子	教室事務		38.
				伊藤よし子	教室事務		
				木村保子	教室事務	38. 4	39. 3

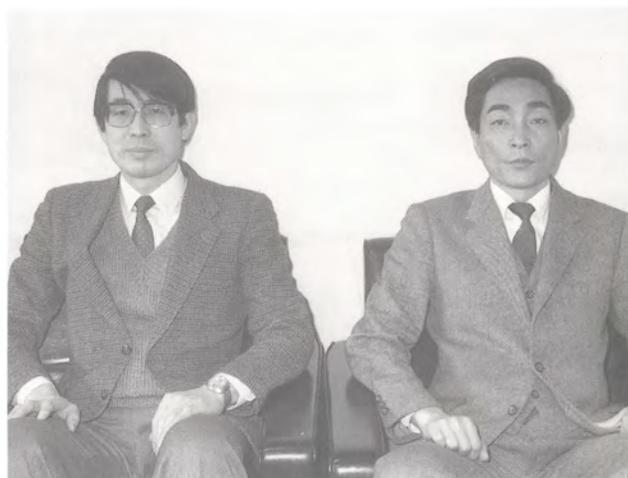
日本大学工業化学科非常勤者名簿

氏名	専攻	着任	退任	氏名	専攻	着任	退任
山口文之助	物理化学	13.		笛木和雄	電気化学	40. 4	61. 3
黒田泰三	工場管理	13.		宮沢清	無機工業化学	44. 10	60. 3
疋田強	火薬学	13.		河東準	化学工学	45. 4	53. 3
小中太郎	機工学概論	13.		小林悦郎	無機化学	45. 3	54. 3
田辺隆一	工場法規	13.		馬場宣良	電気化学	45. 4	
青山敏貞	染料化学	13.		金沢孝文	無機工業化学	45. 4	
平田理久三	火薬学	13.		鐸木啓三	統計熱力学	45. 4	53. 3
黒川美雄	特許法	13.		岡野光治	統計熱力学	45. 4	48. 3
江上不二雄	有機化学	15.		大島栄次	化学工学	45. 4	54. 3
吉沢武男	機械工学	15.		滝幸	物理	45. 4	53. 3
広瀬誠一	油脂化学	15.		紺野公明	統計熱力学	46. 4	47. 3
八田四郎次	化学工学	15.		外山修之	有機工業化学	47. 4	53. 3
浅間勝彦	硫酸塩化学	15.		西岡篤夫	磁核気共鳴	47. 4	54. 3
増野実	食品化学	15.		土屋利一	物理化学	47. 9	62. 3
石井義郎	油脂化学	15.		上野山進	電子演算	48. 4	56. 3
飯島俊一郎	物理化学	16.		近久芳昭	統計熱力学	48. 4	56. 3
浜野元継	火薬学	16.		正野博視	電子演算	48. 4	62. 3
片多零吉	電気化学	16.		三宅淑夫		49. 4	53. 9
安藤次郎	工場法規	16.		藤田重文	化学工学	49. 4	55. 3
松永陽之助	冶金学	16.		佐々木恒孝	界面化学	49. 4	57. 3
岡村幸雄	化学機械	16.		荻野圭三	工業物理化学	49. 4	
石橋政樹	油脂・塗料	16.		植松喜稔	環境化学	50. 4	58. 3
藤原竹雄	工業熔炉	16.		村田富二郎	工化総論	50. 4	54. 3
吉田俊二	酸アルカリ	16.		北川徹三	環境化学	51. 4	54. 3
野口喜三雄	無機化学	16.		寺沢誠司		51. 4	54. 3
江見節男	有機化学	16.		山田和俊		52. 4	56. 3
山本裕徳	火薬学	16.		明島高司	環鏡化学	52. 4	58. 3
畑一夫	有機化学	18. 4	31. 3	池森亀鶴	単位操作	43. 3	
神戸博太郎	物理化学	28. 4	45. 3	富永博夫	触媒化学	54. 4	61. 3
中谷宏	物理化学	28. 4	56. 3	根上真一	界面化学	54. 4	
岡崎一正	火薬学	28. 4	56. 3	三沢節夫	統計熱力学		
大谷泰通	金属生産			鯨井正治	機械化学	57. 9	
後藤健一	工場管理	44. 4	47. 3	長久保国治	工業物理化学	58. 4	
平田光徳	化学工学	35. 4		竹内雍	環境化学	59. 4	
柏原剛	化学プラント工学			藤原鎮男	核磁気共鳴	61. 4	
東田政治	化学工学	36. 4	42. 3	藤堂尚之	有機工業化学	61. 4	
三羽忠広	界面化学	36. 4	44. 3	北村博	生物工学	62. 4	
幡野佐一	化学機械製図	36. 4	44. 3	木村修七	無機工業化学	62. 4	
浅原照三	界面化学	36. 4	44. 3	武田侑夫	電子工学	62. 4	
小西旭	有機材料	37. 4		石川矯	電子演算		
清水貞雄	化学機械設計	39. 4	56. 3				
城塚正	化学工学	39. 4	57. 3				

工業化学科教職員

研究室名50音順

工業化学科教室は理工学部工業化学科と短期大学部(習志野校舎)応用化学科の教職員で構成され、現在、教授11名、助教授12名、専任講師2名、助手7名、副手8名、教室事務2名を有する(昭和63年4月1日現在)。



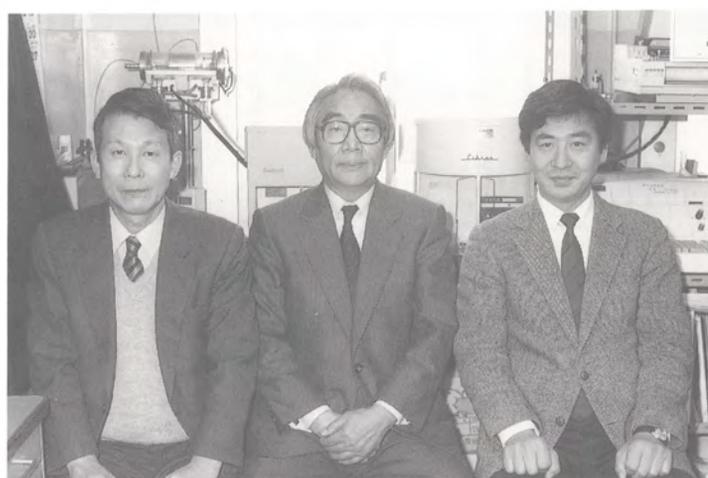
高分子工学研究室
田川浩行専任講師、栗田公夫助教授



化学工学研究室
栃木勝巳助教授、越智健二教授、小島和夫教授、栗原清文助手



金属化学研究室
門井守夫助教授



高分子合成研究室
武末知行助教授、池村紘教授、澤口孝志助手



産業環境化学研究室 市川次良助教授



固体触媒化学研究室 山田翠教授



無機工業化学研究室
青木繁樹助教授、荒井康夫教授、安江任助教授



炭水化物繊維素研究室 宮森宏専任講師



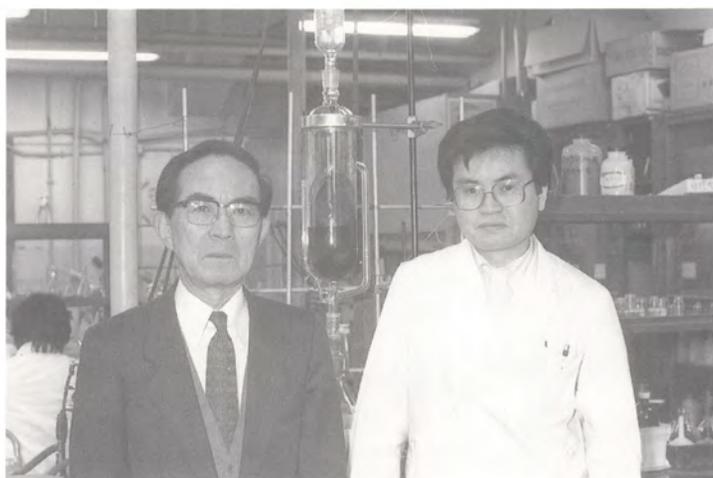
燃料化学研究室 植竹和也助教授



分析化学研究室
磯崎昭徳助教授、桜川昭雄助手
奥谷忠雄教授、内海諭教授



電気化学研究室 上野敦行助教授



油化学研究室
松本太郎教授、秋久俊博助手



有機合成研究室
上條治夫助手、滝戸俊夫研究所助手
中沢利勝助教授、板橋國夫教授



有機物理化学研究室
岡島武義助手、和井内徹教授、真下清助教授



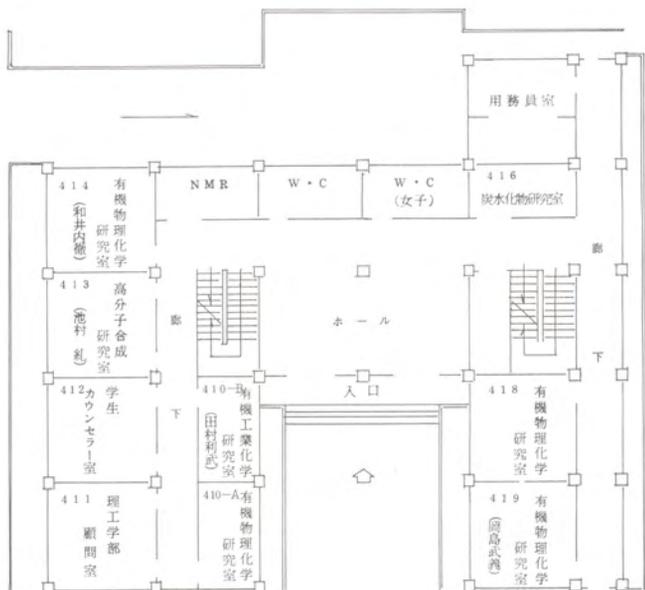
有機工業化学研究室
深津誠助手、田村利武教授



理工学部教室事務
村川信子



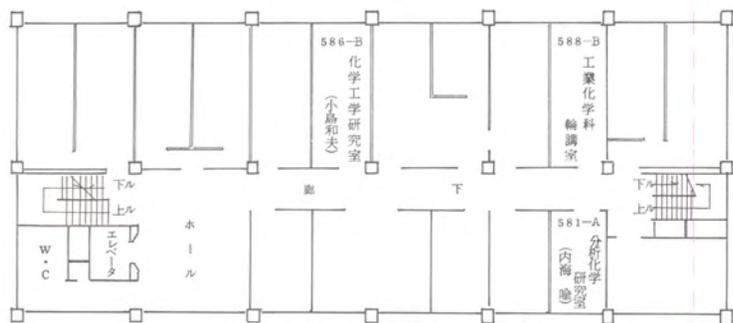
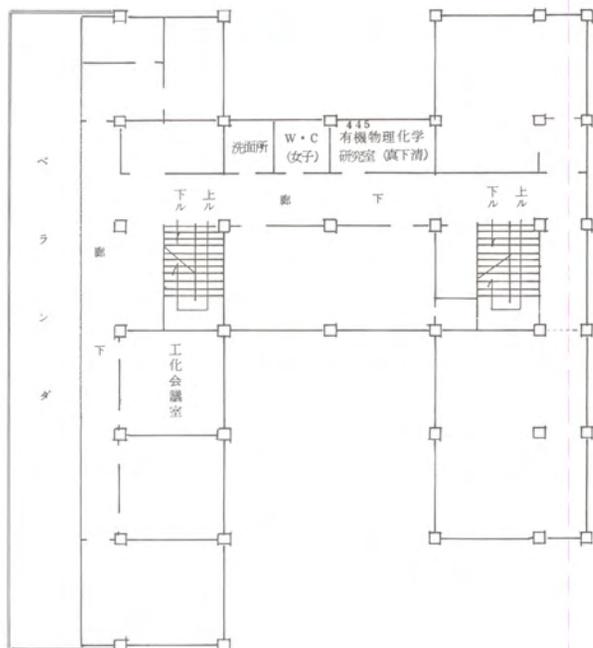
短期大学部教室事務
双木利子



4号館1階



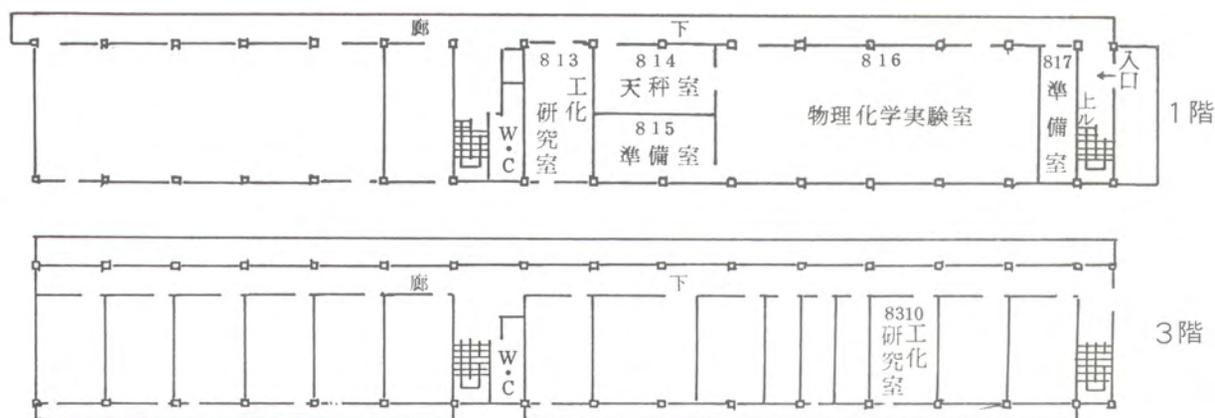
駿河台校舎 4号館



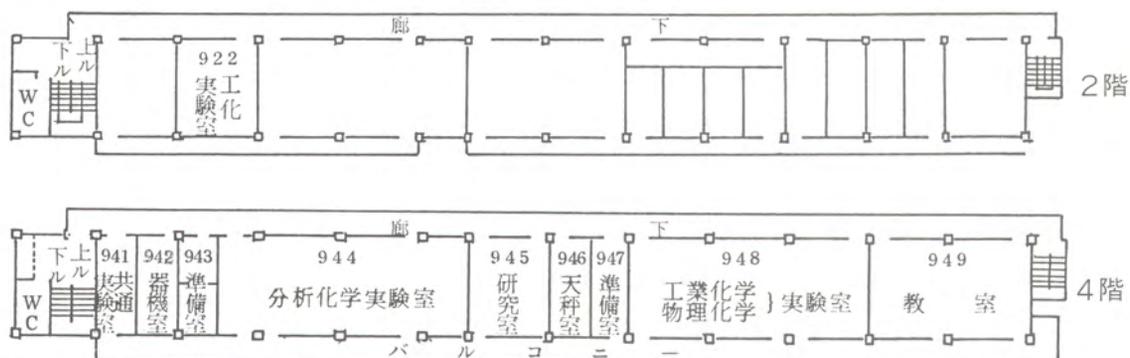
5号館8階

駿河台校舎 5号館

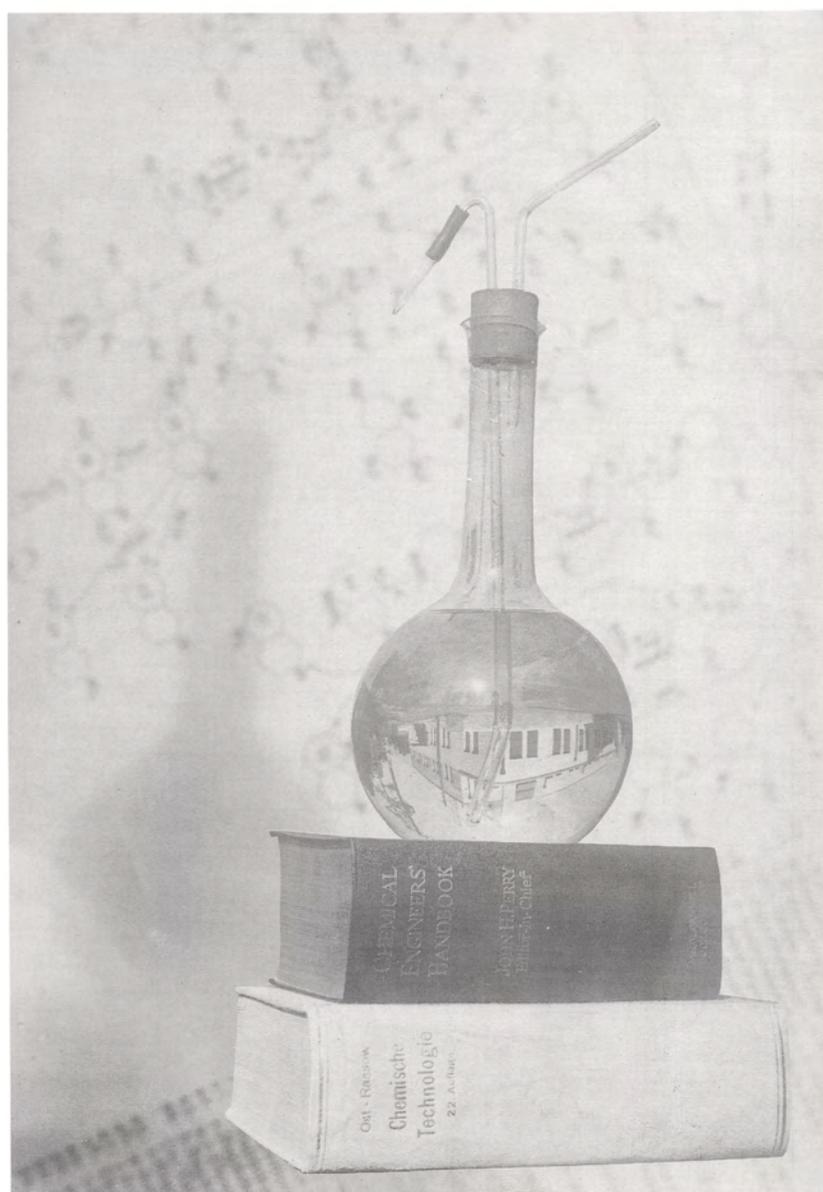
習志野校舎 8号館



習志野校舎 9号館 (短大・応用化学科)



学び舎周辺の移り変わり



旧制学部1期生のアルバムより



松本藩本陣

築見
大森
伊東

柳生
肥後守
中野

田町
田町
田町

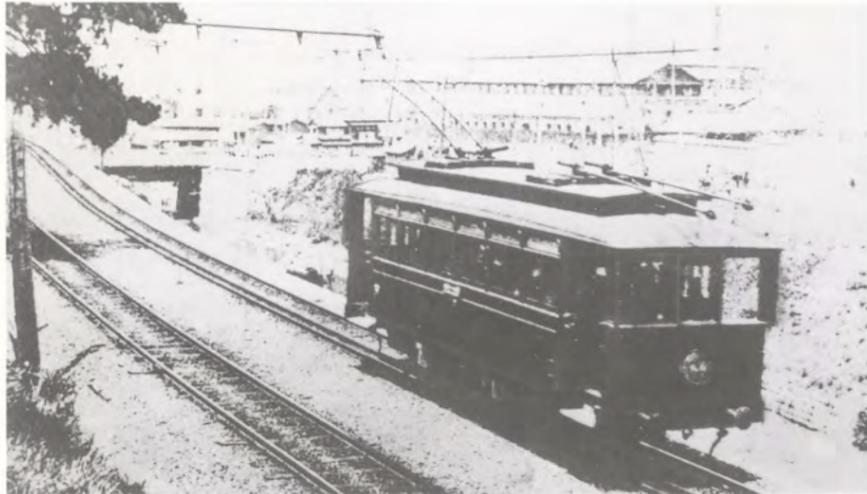
小原
大森

田町

大森
伊東
松本

お茶の水駅周辺の移り変わり

明治22年頃のお茶の水、駿河台界わいは、武家屋敷や白壁の土蔵にまじって、神田川沿いの東京高等師範学校や東京女子高等師範学校などのモダンな洋館が点在していた。



水道橋からお茶の水に向う甲武鉄道電車 (富士銀行お茶の水支店提供)

明治37年末には、甲武鉄道が開業し(下の写真)現在、交番のあるところにお茶の水の駅舎が建った。その後、昭和7年7月1日に総武線乗入れで、お茶の水駅は現在の位置に建てかえられた。

下の写真は、昭和5年頃大震災後に建てられたバラックのお茶の水駅舎である。



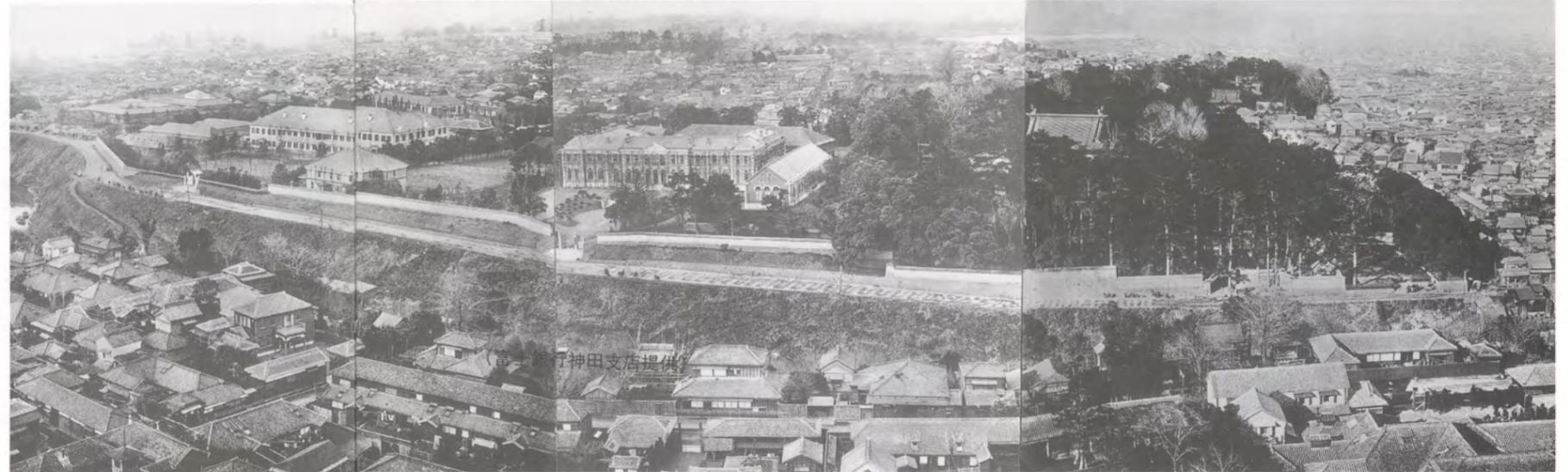
昭和5年のお茶の水駅舎(現在の交番の位置) (富士銀行お茶の水支店提供)

駿河台界わいの住宅街は、次第に学校、出版社、書店や商店などになり、主婦の友社、YWCA、山の上ホテルなどの名建築が建ち、発展していくことになる。

東京女子高等師範学校

東京高等師範学校

湯島聖堂



明治22年のお茶の水・駿河台

(富士銀行お茶の水支店提供)

当時はお茶の水橋も聖橋もなく、駿河台より対岸に行くには水道橋か、あるいは秋葉原近くにある昌平橋を使うしかなかったといわれる。水道橋と昌平橋との距離は約1.2kmで、大変不便であったろう。お茶の水橋は明治24年に出来上った。駿河台地区は対岸より高かったので橋をかけるときは駿河台側を何米か削ったという。関東大震災のため、昭和6年に建て替えられたのが現在の橋である。手前に見える駿河台地区は武家屋敷が建ち並んでいる。

水道橋 東京ドーム

順天堂大学

お茶の水橋

東京医科歯科大学

聖橋



昭和63年のお茶の水・駿河台

現在東京医科歯科大学附属病院は、昔の東京女子高等師範学校跡地に建っている。東京女子高等師範学校は現在のお茶の水女子大学(文京区大塚)の前身である。東京ドームは昭和63年完成である。

お茶の水駅周辺の移り変り

“お茶の水”の語源は、お茶の水橋近くの交番の側に建っている石碑によると、駿河台に高林寺という禅寺があり、この庭からよい水が湧いていて、この水を将軍に差上げたところ大変気に入られ、“お茶の水高林寺”といわれるようになった。このことから次第にこのあたりをお茶の水と呼ぶようになったという。

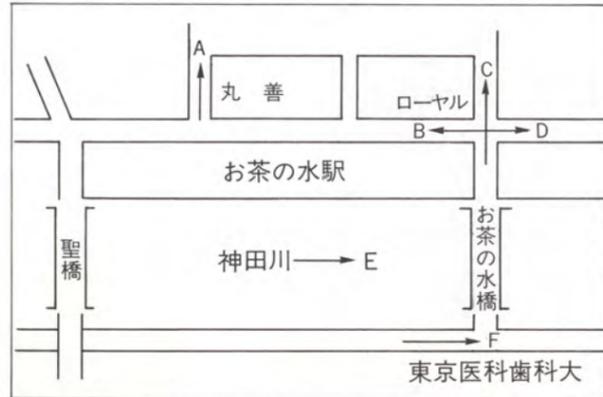
駅の周辺の移り変りははげしく、瀬川病院(A)は現在の瀬川ビルとなり、1階に丸善が入り、駅前のサンヤン(食堂)(B)はパチンコ屋に変わった。駿河台下への道の両側は何れも高層ビルにvari(C)、交番横の日本医師会館への道(D)の両側も同様である。東京医科歯科大学病院前の通りの変り方も著しいものがある。



A 昭和20年代 駅より理工学部本館へ行く道 瀬川病院 (富士銀行お茶の水支店提供)



A 昭和63年 駅より理工学部本館への道 丸善



B 昭和30年代の駅前 サンヤン (富士銀行お茶の水支店提供)



C サンヤン 昭和30年代の駅前 (富士銀行お茶の水支店提供)



B 昭和63年の駅前



C 昭和63年の駅前



交番横にある“お茶の水石碑”



D 昭和20年代の日本医師会館への道 交番 (富士銀行お茶の水支店提供)



D 昭和63年の日本医師会館への道 交番



E 昭和30年代のお茶の水駅 (千代田区役所提供)



E 昭和63年のお茶の水駅



F 東京医科歯科大学病院の建設中



F 現在の東京医科歯科大学病院の通り

ニコライ堂 (ハリストス正教)



明治22年2月に完成したニコライ堂
ドームより高い塔があった。
「本の街」編集室提供

明治22年2月、ギリシャ正教のニコライ堂は、7年の工期を経て完成した。その後、大正12年の関東大震災で焼け、昭和4年に再建された。設計者はロシア工科大学のシュルポフで工事の監督は英国人のジョサイヤ・コンドルである。コンドルは有名な建築家で本郷の東大キャンパスには彼の銅像が建っている。

60段のラセン階段を登ると大小6個の鐘がある。昔は午前7時と正午に鐘を鳴らしていたが、現在は日曜日の礼拝のときだけである。鐘が痛んでいるためといわれる。独特の鐘の音は駿河台で学ぶ人達の耳に残り、忘れられない思い出になる。

コンドルの門下生であった辰野金吾の設計による東京駅の建物は、当時のニコライの八角形の屋根を模したともいわれている。

ニコライのドームのみえる小二階のてすりの下の朝がほの花

与謝野 晶子

理工5号館 理工9号館
理工7号館 理工3号館

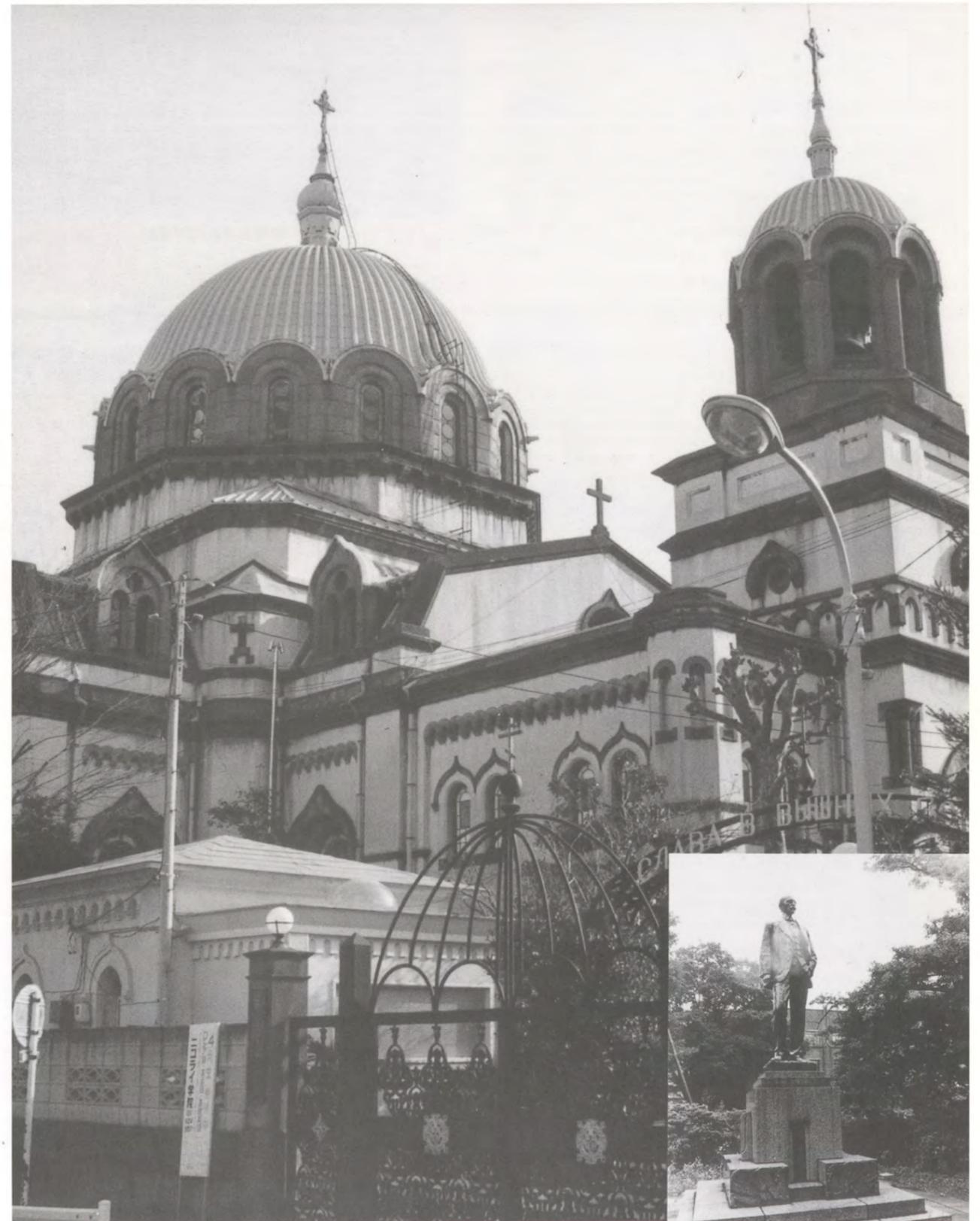


明治22年ニコライ堂の建築現場
(ジョサイヤ・コンドルの設計)
(富士銀行お茶の水支店提供)



ビルに四方囲まれたニコライ堂(昭和63年)

(理工3号館)



現在のニコライ堂(昭和63年)



ジョサイヤ・コンドル(英)
東大構内の銅像
「本の街」編集室提供

1号館周辺の移り変り

ゴシック式の建物の1号館の設計・監督者は、本学の卒業生井郁郎氏（高工建築1回生）である。

昭和3年頃完成と聞く。
木村秀政先生が理工学部長となられた昭和45年に、外壁はタイル張りに変わった。1号館周辺は中央大学が八王子に移転した後、中央大学校舎跡地には大正海上火災(株)の高層ビルが建ち、1号館前の馬事会館の跡地にはNTTのビルが建つなど、著しくこの周辺は変わりつつある。



昭和20年代の1号館



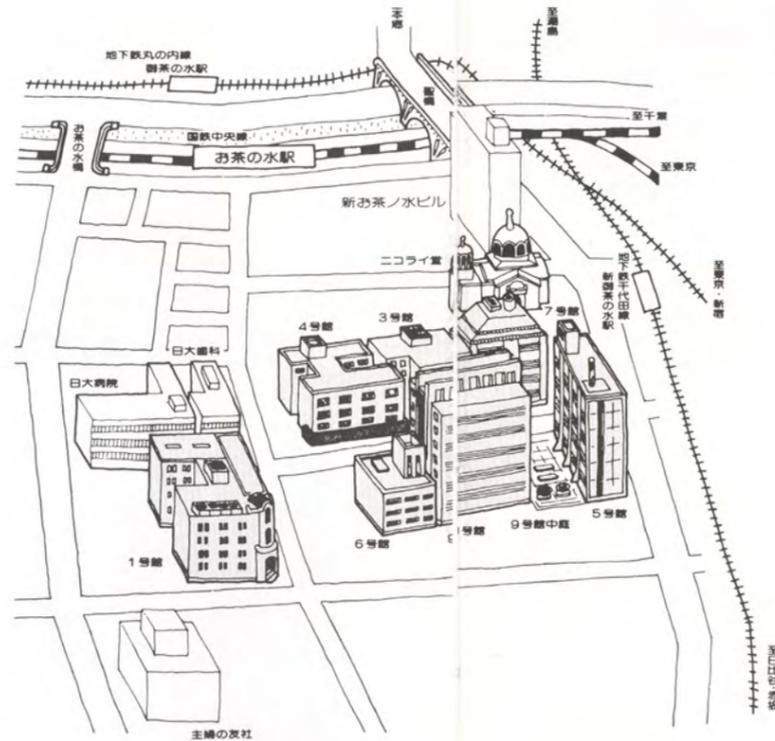
昭和63年の1号館



理工学部4号館建設中



大正海上火災ビル前より1号館をみる



1号館 1号館よりお茶の水駅への道(昭和40年代) 中央大学 (中央大学大学史編纂課提供)



昭和30年代頃の1号館, 6号館, 9号館, 5号館の空中写真(中央大学大学史編纂課提供)



1号館玄関前より中央大学をみる(昭和30年代) (中央大学大学史編纂課提供)



日立製作所本社ビル(昭和63年)



小川町より5号館をみる(昭和40年代)

駿河台校舎2号館周辺の移り変り

山脇服飾美術学院の建物は昭和22年より昭和31年までの間、現在の明大7号館の位置にあった。当時、この学院は3部制で女子学生総数は1500人といわれる。明大女子部も隣合せにあったので、工化2号館前の道路は女子学生の往来が非常に目立ったものである。現在、同学院は市ヶ谷の日大会館の隣りにある。



博物館

④ 山脇服飾美術学院(昭和22年~31年)
現在、明治大学7号館が建っている場所
(理工8号館の正面の位置)
(山脇服飾美術学院提供)



③ 工化2号館玄関前に建っていた
明治大学短期大学部(女子部)
昭和25年~37年
現在の明治大学5号館はこの敷地に昭和38年に建てかえられた。
(明治大学資料室提供)

明大 YWCA 理工本館



② 山の上ホテルより吉郎坂をみる
(昭和30年代頃)

① 昭和20年代の山の上ホテル玄関

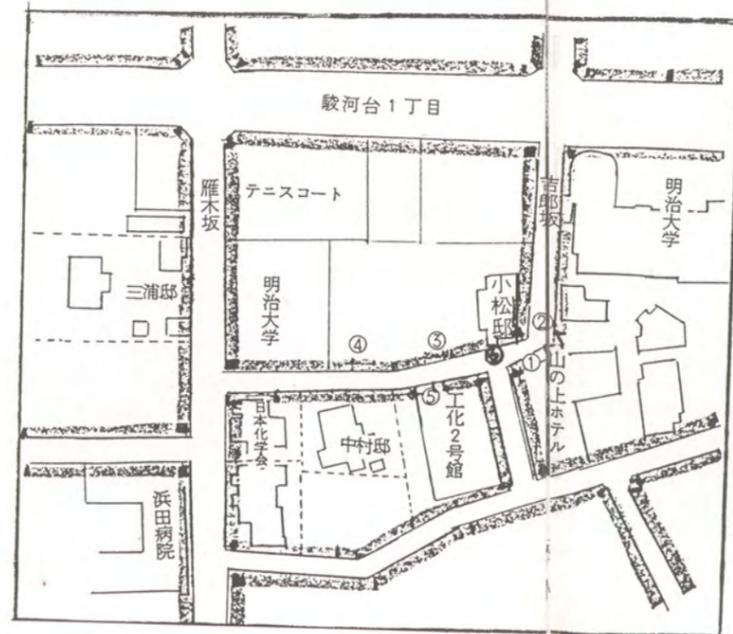


小松邸

2号館屋上よりみる左側の小松邸は、現在の山の上ホテル新館の建っている場所である。



昭和20年代頃の山の上ホテル玄関前



⑤ 工化2号館屋上(現在の3階)より
上野方面をみた写真(昭和24年)

明治大学

山脇服飾美術学院
(現在明治大学七号館)

順天堂大学

日本化学会
(木造建)

中
現在村理工八号館

日本化学会は当時木造民家の建物に事務局があり昭和34年に近代的な建物に建替えられた。すでに約30年を経た。本年(63年)再び新に建替えることが決ったようである。昭和24年頃は写真のように2号館屋上より神田川対岸の順天堂大学の木造建築や、遠くは上野の博物館もよく見えたものである。現在は高いビルが建ち並び全く見えなくなった。